

# 北九州高速鉄道株式会社の経営情報について

( 2023年4月1日から )  
( 2024年3月31日まで )

## 1 株式会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

北九州モノレール中期経営計画（2020-2024）の実行初年度から、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した輸送人員は、コロナ禍においても中期経営計画の重点施策を着実に取り組んできたことに加え、社会・経済活動の正常化が進んだことが追い風となり、需要の回復が予想を上回った結果、前期と比較して大きく増加しました。

営業収益は、輸送人員が予想を上回る回復を見せたことに伴い、運輸収入及びコインロッカー使用料収入が増加したことに加え、前期に新設した広告媒体の「小倉駅ビッグアドサイネージ」の売上増等により、前期を大きく上回りました。

一方、営業費は、車両検査や電力ケーブル張替え等設備の維持修繕費の増加及び各種イベントの実施に伴う広告宣伝費の増加等により前期を上回りました。

この結果、営業損益及び経常損益とも利益を計上し、加えて北九州市から地域公共交通運行支援金等が交付されたことから、当期純損益は大幅な利益を計上することができました。

### ア 輸送人員

当期の輸送人員は、1,201万人（前期比73万人、6.5%増）となり、一日当りの輸送人員は、33,092人（前期比2,181人、7.1%増）となりました。

(輸送人員対比表)

(単位：人)

区 分	2022年度	2023年度	対前期増減	前期比(%)
輸 送 人 員	11,282,432	12,012,355	729,923	6.5
定期外	5,734,242	6,202,417	468,175	8.2
定期	5,548,190	5,809,938	261,748	4.7
通勤	3,381,900	3,546,962	165,062	4.9
通学	1,396,428	1,470,712	74,284	5.3
シルバーバス	769,862	792,264	22,402	2.9
一日平均輸送人員	30,911	33,092	2,181	7.1

※2023年度は北九州市公共交通1日無料デー分（9月3日、10月8日、11月5日）を含まない。

### イ 営業損益

営業収益は、運輸収入が20億3,736万円（前期比1億2,218万円、6.4%増）となり、運輸雑収も開業以来過去最高の売上4億8,428万円（前期比2,128万円、4.6%増）を記録した結果、25億2,165万円（前期比1億4,346万円、6.0%増）を計上しました。

一方、営業費は、20億3,079万円（前期比1億8,796万円、10.2%増）となり、当期の営業損益は、4億9,086万円（前期比4,449万円、8.3%減）となりました。

### ウ 経常損益

上記の営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、5億890万円の利益（前期比4,359万円、7.9%減）となりました。

## エ 当期純損益

上記の経常損益に特別損益を加え法人税等を差し引き、法人税等調整額を加えた当期純損益は、6億4,012万円（前期比3,849万円、5.7%減）となりました。

(損益計算対比表)

(単位：千円、端数四捨五入)

区 分	2022年度	2023年度	対前期増減	増減率 (%)
運輸収入 a	1,915,183	2,037,361	122,178	6.4
運輸雑収 b	463,000	484,284	21,284	4.6
営業収益 A(a+b)	2,378,183	2,521,645	143,462	6.0
減価償却費 c	112,057	119,606	7,549	6.7
その他 d	1,730,771	1,911,180	180,409	10.4
営業費 B(c+d)	1,842,828	2,030,786	187,958	10.2
営業損益 C(A-B)	535,355	490,859	△ 44,496	△ 8.3
営業外収益 D	26,200	25,163	△ 1,037	△ 4.0
営業外費用 E	9,061	7,122	△ 1,939	△ 21.4
営業外損益 F(D-E)	17,139	18,041	902	5.3
経常損益 G(C+F)	552,494	508,900	△ 43,594	△ 7.9
特別利益 H	132,353	77,488	△ 54,865	△ 41.5
特別損失 I	1,297	545	△ 752	△ 58.0
特別損益 J(H-I)	131,056	76,943	△ 54,113	△ 41.3
税引前当期純損益 K(G+J)	683,550	585,843	△ 97,707	△ 14.3
法人税等 L	4,932	4,932	—	—
法人税等調整額 M	0	59,213	59,213	—
当期純損益 K-L+M	678,618	640,124	△ 38,494	△ 5.7
償却前経常損益 G+c	664,551	628,506	△ 36,045	△ 5.4

### (2) 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は、103,845千円であります。

なお、主要な設備投資は、次のとおりです。

・UPS更新（全駅・全変電所）	59,409千円
・業務系基幹統合ネットワーク	15,100千円
・通信ケーブル	11,000千円

### (3) 資金調達の状況

該当する事項はありません。

### (4) 直前三事業年度の財産及び損益の状況

(単位：千円、端数四捨五入)

区 分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
軌道事業 営業収益	1,687,574	2,151,050	2,378,183	2,521,645
経常損益	△ 347,440	428,065	552,494	508,900
当期純損益	△ 10,524,598	434,043	678,618	640,124
一株当たり 当期純損益 (円)	△ 38,924.06	1,605.26	2,509.79	2,367.43
総資産	5,419,488	5,602,365	6,084,841	6,719,141
純資産	2,480,110	2,914,152	3,592,771	4,232,895

## (5) 当期の主な取組

社会・経済活動が正常化に向けて動き出したこともあり、輸送人員のコロナ前水準までの早期回復を目標として、各種の増客・増収施策に取り組んでまいりました。

また、車両等の大規模な設備更新を控え、新技術の導入や設備全体のスリム化等の検討を行うとともに、資金確保の方策として収入増施策の検討や補助金活用について北九州市と協議を進めてまいりました。

加えて、大規模地震を想定した運転事故復旧総合訓練や小倉南消防署との合同訓練を実施する等、安全対策の更なる向上に努めました。

### 1 収益確保、お客さまサービスの向上

#### 【新規施策】

- (1) モバイルレンタルバッテリーの設置（小倉駅他3駅）
- (2) 災害対応型飲料自動販売機設置（全駅）
- (3) LINE公式アカウント開設による情報発信強化
- (4) デジタル乗車券発売（1日乗車券）
- (5) 公共交通一日無料デーの実施（北九州市との連携）
- (6) 観光客のモノレール利用促進施策（外国人向け情報誌への沿線魅力の掲載等）
- (7) 冷凍スイーツ自動販売機設置（小倉駅）
- (8) キャラクターコンテンツ「鉄道むすめ」デビュー
- (9) 運送会社の荷物積替え拠点として基地内の一部を貸出
- (10) リアル桃太郎電鉄（北九州モノレール編）の実施
- (11) 春の満喫きっぷ発売
- (12) デジタルスタンプ「エキタグ」の導入（5駅）

#### 【継続施策】

- (13) お客さまの乗車マナー向上の取組み
- (14) 平和通駅、香春口三萩野駅、城野駅での七夕装飾の実施
- (15) モノレールまつりの開催
- (16) フォトコンテストの実施と写真展の開催
- (17) 平和通駅に平和神社を設置し、合格祈願セットを発売

### 2 各教育機関との連携

- (1) 北九州高専（共同研究発表：線路点検省力化）
- (2) 北九州市立大学（ATB活動、おそうじ大作戦実施等）
- (3) 西日本工業大学（香春口三萩野駅に方向案内サイン設置）
- (4) 九州ポリテクカレッジ（平和通駅、企救丘駅にイルミネーション装飾設置）
- (5) 西南女学院大学・小倉商業高校（駅装飾及び車内装飾を施した特別列車の運行）
- (6) 東筑紫学園高校（平和通駅での駅装飾）

### 3 各団体、企業との連携

- (1) 西鉄バス北九州（災害時における事業用車両の避難に関する協定締結、基地構内でバスの運転体験会）
- (2) シャボン玉石けん（環境に優しい公共交通PR）
- (3) 且過市場（クラフトビアトレイン運行）
- (4) 門司港アンティークカンパニー（ワイン&チーズフェスティバルの開催）
- (5) 福岡市交通局（地下鉄フェスタ2023参加）
- (6) 小倉井筒屋（いづつや饅頭のモノレールバージョンを制作、販売）
- (7) 北九州市（松本零士先生追悼企画の実施、「地球の歩き方（北九州市）」出版記念イベント）
- (8) 北九州スポーツクラブACE（基地構内で牡蠣小屋の開催）
- (9) 北九州市、UR、西鉄バス北九州（持続可能なまちづくりに関する勉強会を開始）
- (10) 小倉イルミネーション実行委員会、フードバンク北九州ライフアゲインとの各種連携

## (6) 対処すべき課題

輸送人員は、社会・経済活動の正常化が一層進んだこともあり、予想を上回る増加によりコロナ前の利用状況にほぼ回復することができました。今後、更なる輸送人員の増加を実現するためには、引き続き利用動向等を分析しながらターゲットを絞る等、戦略的な営業活動の展開が必要となっています。

また、2020年度に実施した固定資産の減損処理により、翌期以降の損益収支は黒字化したものの、資金収支においては、営業キャッシュフローに何ら影響を与えないことから構造上の変化はなく資金の大幅な上積みは見込めない状況です。

このような状況の中、今後予定している設備更新については莫大な資金が必要なことから設備更新方法と合わせ、その資金確保の方策について、外部有識者の意見も踏まえながら鋭意検討を行ってまいります。

加えて人財の確保につきましても、全国的な人手不足や人財獲得競争の激化等に迅速且つ柔軟に対応できる環境整備が急務と捉え、「計画的な採用」「人財育成」「正社員定年後の継続雇用率アップ」などに繋がる方策を進めてまいります。

中期経営計画（2020-2024）につきましては、これまでの振り返りを行いながら、重点施策の目標達成に向け各種施策の確実な実行を推進してまいります。

今後もお客さまの安全、正確、快適、利便性の向上を図るとともに、増収、利用促進策や経費削減策に着実に取り組み、企業としての発展に努めてまいります。

## ○2024年度の主な事業

### 中期経営計画（2020-2024）の実行

#### 1 重点施策

- (1) 輸送の安全と定時運行の確保
- (2) お客さまの満足度向上
- (3) 輸送人員並びに収入増施策
- (4) コスト管理の徹底
- (5) 人財の育成
- (6) お客さまマナーの改善

#### 2 実施方策

##### (1) 増収策

- ア 沿線教育機関、事業体、他交通機関との連携強化
- イ 沿線の魅力等情報発信の強化によるインバウンド等観光需要の取り込み
- ウ デジタル乗車券等の新商品開発
- エ 駅構内や基地広場の更なる有効活用

##### (2) コスト削減策

- ア コスト管理の徹底
- イ 業務の見える化やDX化着手等による業務効率化
- ウ 特注機器の汎用化や設備の点検周期の見直し

##### (3) 設備計画、資金計画

新技術導入や設備全体のスリム化等による設備更新方法及び効果的な資金確保策の方向性確定

(7) 主要な事業内容

当社は、軌道事業を主要な事業内容としております。

(8) 主要な事業所

ア 本 社 北九州市小倉南区企救丘二丁目13番1号  
イ 企救丘総合基地 北九州市小倉南区企救丘二丁目13番1号

(9) 従業員の状況

種別	区分	従業員数	
		人数	増減
正社員(人)		60	0
再雇用嘱託社員(人)		1	0
出向社員(人)		6	0
嘱託社員(人)		55	6
合計(人)		122	6
正社員平均年齢		45.7歳	
正社員の平均勤続年数		25.5年	

※再雇用嘱託社員とは、正社員の定年退職者が1日の空白もなく引き続き嘱託社員として再雇用される社員をいう。

(10) 主要な借入先の状況

借入先	借入金残高 (円)	借入先が所有する当社の株式	
		持株数(株)	議決権比率(%)
北九州市	768,000,000	270,388	100.00

(注) 北九州市からの借入金は、全額無利子であります。

(11) 親会社との取引に関する事項

- 当該取引をするにあたり当社の利益を害さないよう留意した事項  
当社の親会社は、北九州市であり当社の議決権の100% (株式数270,388株) を保有しています。同市との取引は、同市が所有する公共施設の管理の受託、資金の借入等であり、その取引条件につきましては、市場価格等を勘案したうえで、公正かつ適正に決定しております。
- 当該取引が当社の利益を害さないかどうかについての取締役会の判断及びその理由  
当社は上記の留意事項等を踏まえ、社外取締役及び社外監査役が出席する取締役会において、多面的な議論を経て決定しており、当該取引が当社の利益を害するものではないと判断しております。なお、取締役会には原則として、一年に一度以上、資金調達に関する事項が報告されています。
- 取締役会の判断が社外取締役の判断と異なる場合の当該意見  
該当事項はございません。

## 2 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式の総数 270,388 株
- (2) 発行済株式の総数 270,388 株
- (3) 株主数 1 名
- (4) 株主の状況

株主名	当社への出資状況		当社の株主への出資状況	
	持株数 (株)	議決権 比率(%)	持株数 (株)	出資 比率(%)
北九州市	270,388	100.00	0	0.00

## 3 会社役員に関する事項

- (1) 取締役及び監査役の状況等

役職名	常勤又は非常勤の別	氏名	他の法人等の代表状況等
代表取締役	常勤	柴田 卓典	
取締役	非常勤	上村 周二	北九州市 建築都市局 局長
取締役	〃	中野 好生	㈱北九州輸入促進センター 常勤監査役
監査役	常勤	小林 一彦	
監査役	非常勤	倉知 宏	北九州市 建築都市局 総務部長
監査役	〃	野中 宏之	㈱福岡銀行 常務執行役員 北九州代表兼本部長

(注1) 取締役 上村 周二、取締役 中野 好生は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

(注2) 監査役 小林 一彦、監査役 倉知 宏、監査役 野中 宏之は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

- (2) 取締役及び監査役の報酬等の額

区分	支給人数	支給額	摘要
取締役	3 名	8,748,000 円	(うち社外 2 名 1,200,000 円)
監査役	2 名	1,200,000 円	(うち社外 2 名 1,200,000 円)

(注1) 期末現在の取締役は3名、監査役は3名であります。

(注2) 役員報酬の額(平成5年6月18日 第17回定時株主総会決議)

取締役 年額 18,000,000円以内、監査役 年額 2,000,000円以内

## 4 会計監査人に関する事項

- (1) 会計監査人の名称 公認会計士北部九州監査団
- (2) 会計監査人の報酬等の額

	支払額
当事業年度に係る報酬等の額	2,500,000円
当社が会計監査人に支払うべき金銭その他財産上の利益の合計額	2,500,000円

# 貸借対照表

(2024年3月31日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)	(円)	(負債の部)	(円)
流動資産	4,140,624,431	流動負債	936,228,588
現金及び預金	3,706,233,848	1年以内返済予定の 長期借入金	76,000,000
未収運賃	42,781,268	リース債務	153,369,230
未収金	140,489,573	未払金	507,810,623
貯蔵品	250,650,092	未払費用	7,400,367
前払費用	464,130	未払法人税等	4,932,000
未収還付法人税等	5,520	未払消費税等	23,346,000
		預り金	7,464,891
		前受運賃	85,844,256
		前受収益	26,154,601
		賞与引当金	43,906,620
固定資産	2,578,516,284	固定負債	1,550,017,126
軌道事業固定資産	2,296,236,474	長期借入金	692,000,000
建設仮勘定	223,000,000	リース債務	312,584,126
投資その他の資産	59,279,810	退職給付引当金	540,484,000
繰延税金資産	59,213,000	預り敷金	2,099,000
その他	66,810	預り保証金	2,850,000
		負債合計	2,486,245,714
		(純資産の部)	
		株主資本	4,232,895,001
		資本金	100,000,000
		資本剰余金	9,771,521,775
		資本準備金	6,871,521,775
		その他資本剰余金	2,900,000,000
		利益剰余金	△ 5,638,626,774
		その他利益剰余金	△ 5,638,626,774
		繰越利益剰余金	△ 5,638,626,774
		純資産合計	4,232,895,001
資産合計	6,719,140,715	負債・純資産合計	6,719,140,715

# 損 益 計 算 書

( 自 2023年4月 1 日  
至 2024年3月31日 )

科 目	金 額	
	(円)	(円)
軌道事業		
営業収益		
旅客運輸収入	2,037,360,906	
運輸雑収	484,284,202	2,521,645,108
営業費	2,030,785,743	2,030,785,743
軌道事業営業利益		490,859,365
営業外収益		
受取利息	36,067	
雑収入	25,127,162	25,163,229
営業外費用		
支払利息	7,120,700	
雑支出	1,331	7,122,031
經常利益		508,900,563
特別利益		
補助金収入	77,463,475	
固定資産売却益	24,281	77,487,756
特別損失		
固定資産除却損	544,825	544,825
税引前当期純利益		585,843,494
法人税、住民税及び事業税	4,932,000	
法人税等調整額	59,213,000	△ 54,281,000
当期純利益		640,124,494

## 株主資本等変動計算書

( 自 2023年4月1日  
至 2024年3月31日 )

(単位：円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	100,000,000	6,871,521,775	2,900,000,000	9,771,521,775	△ 6,278,751,268	△ 6,278,751,268	3,592,770,507
当期変動額							
当期純利益	0	0	0	0	640,124,494	640,124,494	640,124,494
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	0	0	0	0	0	0	0
当期変動額合計	0	0	0	0	640,124,494	640,124,494	640,124,494
当期末残高	100,000,000	6,871,521,775	2,900,000,000	9,771,521,775	△ 5,638,626,774	△ 5,638,626,774	4,232,895,001

	評価・換算差額等		純資産合計
	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	0	0	3,592,770,507
当期変動額			
当期純利益	0	0	640,124,494
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	0	0	0
当期変動額合計	0	0	640,124,494
当期末残高	0	0	4,232,895,001